

## 株式会社京都産業振興センター

### 第1 法人の概要

#### 1 代表者

代表取締役社長 山本 達夫

#### 2 所在地

京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

#### 3 電話番号

075-762-2633

#### 4 ホームページアドレス

<https://www.miyakomesse.jp/> (京都市勸業館)

#### 5 設立年月日

平成5年4月27日

#### 6 資本金

90,000千円 (うち本市出資額 54,000千円、出資率 60.0%)

#### 7 事業目的

京都市勸業館の管理運営、展示会、見本市等の企画開催及び誘致ほか

#### 8 業務内容

- (1) 京都市勸業館の管理及び運営
- (2) 京都伝統産業ミュージアムの管理
- (3) 展示会、見本市等の企画開催及び誘致

#### 9 所管部局

産業観光局クリエイティブ産業振興室 (TEL 075-222-3337)

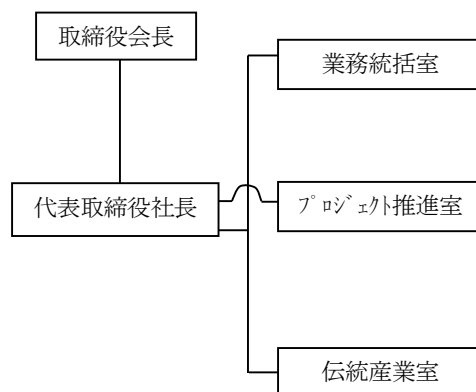
#### 10 役員名等

- (1) 取締役会長  
石田洋也 (京都市産業・文化融合戦略監)
- (2) 代表取締役社長  
山本達夫
- (3) 取締役  
玉木利忠、兒島宏尚、田中雅一、林史己、松村孝之、川勝哲夫、  
山口薫 (産業観光局クリエイティブ産業振興室長)
- (4) 監査役  
外村弘樹、川越とし子

#### 11 職員数

常勤職員数 28名 (うち本市派遣職員1人)、非常勤職員数 15名

#### 12 組織機構



## 第2 目標及び実績

### 1 業務面

#### (1) 目標及び実績

目標1 「京都市勧業館の利用促進」	
令和4年度の目標	変異株の感染拡大など、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な中、指定管理者申請（令和2年8月提出）で掲げた目標稼働率52%の達成は大変厳しい状況にあるが、催事開催に向けた「感染拡大予防ガイドライン」を発信するとともに、主催者が安心安全に催事を開催できるようサポートし、稼働率の確保につなげる。
令和4年度 の取組結果 (※)	
令和5年度 の目標	<p>コロナ禍からの完全な回復はまだ難しいとみているが、新規顧客の獲得をはじめ、繰り返し利用していただく顧客を獲得することで稼働率の確保につなげる。</p> <p><b>【新規顧客の獲得】</b>            広報、宣伝を強化する。具体的には、年間を通して交通広告・駅メディアを活用する等、施設のPRを強化して新規顧客の獲得を図る。            コロナ禍で見合わせていた首都圏及び関西圏の訪問営業を再開し、伝統産業ミュージアムと併せて施設のPRを行うことで顧客の裾野を広げる。</p> <p><b>【継続利用顧客の獲得】</b>            施設利用期間中における利用者とのコミュニケーションを強化するとともに、利用満足度調査アンケートの実施により利用者の要望を把握し、速やかに対応する等、利用者に寄り添った運営を行うことで今後の継続利用につなげる。</p> <p>アフターコロナにおける利用顧客層の変化を見極めながら、継続利用顧客と新規顧客の双方の獲得を目指す。</p>

指標	展示場の面積稼働率						(単位：%)	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)
			20.26		36.98	52.00		53.00

目標2 「京都伝統産業ミュージアムの認知度向上」	
令和4年度の目標	京都伝統産業ミュージアムについて、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な中、他府県の方、特に海外の方の来館が見込めず厳しい状況であるが、常に新しい情報の発信を心掛け、来館者の増加につなげる。
令和4年度 の取組結果 (※)	

令和5年度の目標	<p>令和5年9月から、京都伝統産業ミュージアムの観覧料設定に伴い、京都市と緊密な連携のもと、インバウンド向けの館内案内の多言語対応の実施、職人実演や企画展の充実、常設展示場の定期的な入替等により、ミュージアムの機能充実を図り、ミュージアムの魅力を高めるとともに、岡崎地域の周辺施設と連携を行うことで、来館者の増加を目指す。</p> <p>合わせて、メディア戦略やSNS戦略の強化、国内外の雑誌へのアプローチ、さらには旅行会社、観光ガイドへの営業活動など、これまで以上に認知度の向上に力を入れ取り組んでいく。</p>
----------	--

指標	「ミュージアム来館者数」						(単位：人)	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
					72,558	170,000		55,000

(2) 事業実績 (令和3年度)

ア 京都市勸業館の指定管理

(ア) 展示場の利用状況

面積稼働率 36.98%

(イ) 会議室の利用状況

稼働率 23.09%

(ウ) 美術工芸ギャラリーの利用状況

稼働率 43.29%

イ 京都伝統産業ミュージアム事業

(ア) 市委託事業「京都市伝統産業品販売促進支援事業」の実施

(イ) 有料企画展の開催

- ・スペースマウンティング

会期：令和3年6月12日～8月29日（緊急事態措置による臨時休館のため8月19日で終了）

入場者数：2,242人

- ・SHOKUNIN Pass/Path

会期：令和3年11月6日～令和4年1月23日

入場者数：2,023人

(ウ) ミュージアムショップ事業

- ・ミュージアムショップ商品売上 23,804千円（オンラインショップ含む／消費税等含まず）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための休館の状況

- ・展示場、会議室、美術工芸ギャラリー 4月25日から5月31日まで
- ・駐車場 4月25日から5月31日まで
- ・京都伝統産業ミュージアム、ミュージアムショップ 4月25日から5月31日まで  
8月20日から9月30日まで

## 2 財務面

### (1) 目標及び実績

目標1 「京都市勧業館みやこめっせ事業における収入の確保」	
令和4年度の目標	変異株の感染拡大など、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な中、感染予防対策による催事取止めの申し出も想定され、引き続き厳しい状況であるが、催事開催に向けた「感染拡大予防ガイドライン」を発信するとともに、主催者が安心安全に催事を開催できるようサポートし、利用料収入の確保につなげる。
令和4年度の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	<p>コロナ禍からの完全な回復はまだ難しいとみている。さらに、光熱費高騰の影響を受け、財務面では厳しい状況が続くと想定されるが、展示場運営について稼働率の向上を図り、利用料収入を確保する。また、単なる貸館業務に留まるのではなく、積み重ねたノウハウを駆使して利用者に寄り添い、催事が成功裡に終わるようにサポートすることでさらなる利用料収入の増を目指す。</p> <p>また、展示場の空いている期間を利用して自主企画事業等を実施し、来館者の増加につなげる。それにより、ミュージアムへの来客を増やし、観覧料（9月以降）及びショップの売上増を目指す。</p>

指標	施設利用料収入						(単位：千円)	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
			408,942		389,720	471,000		522,700

目標2 「非外郭団体化に向けた取組」	
令和4年度の目標	
令和4年度の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	いまだコロナ禍からの回復途上であることに加え、光熱費等の高騰による経費負担増から厳しい状況が続く見込みであるが、一層の財務改善に取り組み、黒字化を目指す。

指標	「税引前当期純利益」						(単位：千円)	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
								△34,500 以上 (赤字幅の 縮小)

主要財務数値								(単位：千円)	
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	予算	実績	予算	実績	予算	実績 (※)	予算	実績 (※)	
経常収益	717,000	462,212	499,000	584,173	621,200		734,800		
経常費用	698,500	559,750	629,600	624,046	671,500		769,300		
経常利益	18,500	△97,538	△130,600	△39,873	△50,300		△34,500		
資産合計	-	801,351	-	827,714	-		-		
負債合計	-	383,281	-	383,389	-		-		
純資産合計	-	418,070	-	444,325	-		-		
うち累積損益額	-	328,070	-	354,325	-		-		

(参考) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		R2 決算	R3 決算	R4 決算 (※)	R5 予算
委託料	協定に基づく管理運営費	-	77,829		-
	京都市伝統産業品販売促進支援事業	-	70,000		-
補助金	京都市中小企業等再起支援補助金	-	150		-
	京都市中小企業等再起支援補助金「応援金」	-	100		-

### 3 組織面

#### (1) 目標及び実績

目標 「持続可能な経営のための組織強化」	
令和4年度の目標	指定管理業務の変更に伴い、これまで公益財団法人が行っていた京都伝統産業ミュージアム事業を当社が継承することとなり、社員数も大幅に増加した。効果的な研修を実施し、社員のスキルアップを図り、施設のグレードの向上に努める。
令和4年度の実績 (※)	
令和5年度の目標	これまで社員が担当していた業務をアウトソーシングに切り換える等、組織のスリム化を目指すとともに、引き続き効果的な研修を実施し、社員のスキルアップを図り、施設のグレードの向上に努める。

指標		「効果的な研修の実施」						(単位：回)	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標	実績 (※)	
			1		4	2		2	

### 第3 令和4年度の経営評価（令和3年度の経営状況に対する評価）

#### 1 所管局による評価

財務面	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、催事・イベント開催等が自粛される中、施設利用促進の取組により、昨年度に比べて展示場稼働率が上昇し、施設利用料収入及び駐車場利用料収入が増加した他、国等の補助金を積極的に活用するなど、収入増に対する努力を行っている点、施設の維持管理費の抑制や、組織内における給与制度の改定により人件費の抑制を図るなど、経費削減に取り組んでいる点は評価できる。</p> <p>ミュージアムショップ事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、来館者が増加せず、当初の想定よりも売上が伸びなかった。今後、大きな収入源の一つとなるよう、売上増加に繋がる取組が必要である。</p> <p>なお、令和3年度の最終的な純利益は黒字となっているものの、これは、本市からの運営維持管理費等の交付によるものであり、経常利益では赤字となっていることから、今後は、経費削減に努めるだけでなく、新たな収入源確保について検討するなど、コロナ禍においても安定した経営が行えるよう取り組む必要がある。</p>
事業面	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、催事・イベント開催等が自粛される中、感染防止対策の徹底や催事開催のサポート等の取組を行うことにより、展示場稼働率は、昨年度の20.26%から36.98%まで上昇した点は評価できるものの、コロナ禍前の水準までは回復していないことから、今後も引き続き、積極的な広報活動や営業活動による新規顧客の獲得など、更なる稼働率の向上に向けた取組を行う必要がある。</p> <p>また、伝統産業ミュージアムについては、令和3年度が管理運営業務の初年度であったが、こちらも緊急事態宣言に伴う臨時休館等があり、当初の想定よりも来館者数が伸びず厳しい状況であった。今後も引き続き、来館者の増加に繋がる取組に加え、伝統産業ミュージアムを拠点として実施する事業やミュージアムショップと連携した企画等の充実を図っていく必要がある。</p>

#### 2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>経常利益が前年度から継続して赤字となっており、早期の収支改善が求められる。</p> <p>当団体が運営している勸業館の指定管理者は4年毎に公募されることから、競合他社に負けず、今後も指定を受け続けることができるよう、ノウハウの蓄積や人材育成、増収策の検討等の取組に一層努めていただきたい。その上で、当団体は自律化（非外郭団体化）目標を達成できていないことから、所管局による指導・助言の下、目標年度を設定し資金を計画的に積み立てる等、自律化に向けた具体的な取組を着実に進めていただきたい。</p> <p>また、収益の向上に当たっては、京都市から委託された指定管理業務（貸館等）による利用料収入だけでなく、予約の無い時間帯の展示場や敷地等を活用した自主事業（イベント企画等）などによる新たな収入確保も積極的に検討いただきたい。</p>
--